

男女共同参画社会の 実現に向けて取り組もう

慣行にとらわれることなく、
老若男女が対等に話し合い、
誰もが住みやすい地域を目指しましょう。

1. 男女共同参画ってなに？

2. いまも残る地域の慣行 そして松川町の課題

3. 防災からみる男女共同参画

4. イクメンのすすめ



いっしょに育てよう 一人ひとりが輝く 笑顔あふれるまち まつかわ

男女共同参画ってなに？

(1) 男女共同参画社会ってなに？

性別に関わりなく「自分らしく」生きるために、社会のあらゆる場面で、多様な選択の機会が確保でき、また男女が「共に」責任を担っていく社会です。



(2) ジェンダーってなに？

長い歴史のなかで生まれた「女は、男は、こういうものだ」という通念や、「男性は外で仕事、女性は家庭の中で家事、育児」というような、固定的な役割分担意識のことをいいます。

ジェンダーは、あたりまえのように、私たちの意識や生活の中にとけ込んで、気づきにくいものです。ですから、私たちは、知らず知らずのうちにジェンダーにしばられたものの見方や言動をしています。

ジェンダーにとらわれない社会を目指すために私たちの意識や生活の中にある、ジェンダーに敏感に気づいて、なくしていく必要があります。

① 家庭の中のジェンダー

夫婦の関係に、伝統的な男女の上下関係や、「男は仕事、女は家事、育児」といった決めつけを持ち込んでいませんか？

例えば

- ・ 夫は、自分が家族を養っているという意識が強い
- ・ 台所は女の城だと思っている
- ・ 子どもが小さいうちは母親が育てるのが良い

夫婦は、対等なパートナーとして、お互いに生活面でも経済的にも自立した個人として支え合って暮らしていきたいですね。

例えば

- ・ 一緒にいるとお互いに楽しい
- ・ 意見が合わないときは両方が納得するまで話し合う
- ・ 子育ての方針は両方で話し合って決める

子育ても、「男らしさ、女らしさ」にこだわって育てていませんか？子ども一人ひとりの個性を尊重し、能力を生かしながらのびのび育てましょう。

② 地域や社会の中のジェンダー

地域や社会生活で「代表や責任者は男性、女性は補佐役・雑用係」など、役割が決まっていますか？

このような区別や差別は長い歴史の中で形成され、私たちの生活に根をはっているため、ふだんは気づかず見過ごされています。

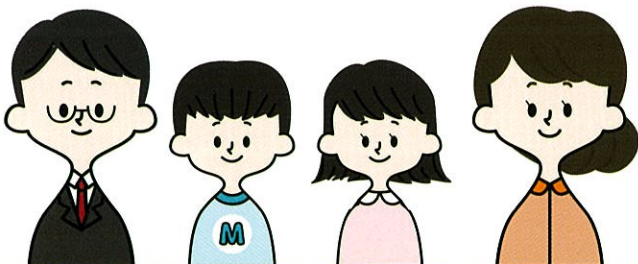
例えば

- ・ 会合のお茶の準備、片づけは、女性の仕事
- ・ 一家を代表するものには、男性(夫)の名前を書く
- ・ 地域の行事では、女性は裏方、表舞台は男性

地域は暮らしの場です。人々が住み、子どもが育ち、隣近所のつきあいや買い物などさまざまな日常生活のいとなみが行われています。みんなが楽しく安心して暮らせるように、女性も男性も役割を担い、協力し、住みよい地域づくりをしていきましょう。

例えば

- ・ 女性も男性も自分の意見を出し合って決める
- ・ 慣例にとらわれず、新しい方法も取り入れられる
- ・ 女性も自治会の役員や会長を受けることに抵抗がない



(1) いまも残る地域の慣行



男性が出るのが
当たり前だったけど、
女性でもよいと思う。

実際、役員を女性が
やったこともあるが、
定着しなかった。



勇気をもって
意見を出したけど
「女が何を言うか」
という感じだった。

高齢化、過疎化、
女性に役員になって
もらわなければ回らない。



自治会の会合は男性が主。
主人の代理で出席しても
意見が言えない。

女性の視点、感性を
取り入れるのは、
これから大事。



(2) 地域の役員への女性登用に対する課題

① 女性が参画しやすい体制と環境づくりを

- ・みんなが男女共同参画を理解し、女性の社会参画への必要性を知る。
- ・女性ならではの視点や考えを発揮できる役職を検討する。
- ・安心して地域へ出られるよう、家庭での役割分担を検討する。

② 踏み出す一歩への支援を

- ・若いうちから女性グループで学習を積む。
- ・勇気を出して参画してもらい、みんなでサポートをする。

③ 家庭での役割の見直しを

- ・育児、家事、介護等において、男性が担える環境と知識を養う。

④ 女性ならではの感性が生きる社会へ

- ・女性の声がかえ、発言しやすい場を検討する。
- ・女性の行動力や度胸が活かせる場所はたくさんある。



3

防災からみる男女共同参画

=女性にとって、避難所生活って…=

知らない人と生活するのは
やっぱり不安。防犯対策は？

阪神・淡路大震災、
東日本大震災を教訓に



まわりが男性ばかりで
気持ちが落ち着かない！
やっぱり視線が…。
授乳はどこで？
プライバシーは？

女性だけが、食事の準備や
後片付け？トイレ等の掃除や
ゴミの処理は…。

洗濯物の干し場も、
着替えの場所も
男女いっしょなの？

男性ばかりで何でも
決めてしまうけど…。

女性の視点を！性別にこだわらない意識改革を！

- ①災害・復興時には、女性の不利益が高まることや、家事的な作業が女性に集中することなどの問題が明らかになっていることから、固定的な性別役割分担意識をなくすことが大切です。
- ②防災・災害復興の分野への女性の参画を進めるために、日頃から男女が協力し、双方の意見が反映される地域活動の推進を図り、意思決定過程への女性の参画を進めることが大切です。

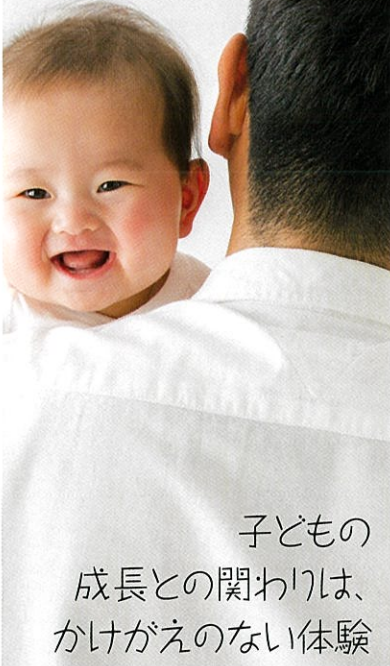
4

イクメンのすすめ

イクメン度チェック



今しかできないこと、
今だからこそ
できること



子どもの
成長との関わりは、
かけがえのない体験

- 脱いだ服や靴下を脱ぎっぱなし…なんてことは、しない!!
- トイレ掃除、風呂掃除、ゴミ出し、食器洗い、どれかひとつはやっている
- 子どもの生年月日は？もちろん知っている
- 予防接種の接種状況をだいたい把握している
- “パパ友”と呼べる人がいる
- 「これだけはゆずれない!」自分流のしつけルールがある
- 赤ちゃんと2人っきりで2時間以上お出かけできる
- 夜泣きする赤ちゃんを何度も寝かしつけたことがある
- 家族でお出かけ、赤ちゃんの抱っこはお父さんの担当
- 仕事で疲れていても妻の世間話を「うんうん」と聞く

9～10点	6～8点	3～5点	0～2点
決定! “スーパーイクメン”	がんばってる! “イクメン”	まだまだ 発展途上!	育児は女性の仕事 と思っている!?
素敵なイクメン。 このまま家族の幸せをつかめ。	妻に依存せず、 さらにイクメンを目指せ。	最初から完璧はない。 失敗を恐れず行動を。	子ども時代は短く貴重。 今日からひとつずつ。